

萩市と下田市は姉妹都市提携50周年

～山口県萩市から担当者が届けます！～

問合せ先：企画課秘書広報係（河内庁舎2階）☎22212

萩市公式訪問団が「黒船祭」を訪れました！

5月16～18日にかけて、萩市の公式訪問団40名が「黒船祭」に参加しました。訪問団は、「トップ交流」「物産交流」「青少年交流」の3つの柱で交流を深めました。

トップ交流では、16日に下田市役所を表敬訪問し、温かい歓迎を受けました。その後、黒船祭歓迎交流会や姉妹都市・友好都市交流会に出席し、17日には記念式典に参加。吉田松陰先生ゆかりの地も訪問し、両市の歴史的なつながりを再確認しました。さらに、姉妹都市提携50周年を記念する歓迎交流会では、萩市と下田市の絆をより一層深めることができました。

物産交流では、17～18日に黒船祭の会場に特設ブースを設置し、萩市の伝統工芸品や農水産加工品などを紹介しました。あいにくの雨天にもかかわらず、多くの来場者に萩の魅力をお届けすることができました。

青少年交流では、萩商工高等学校および萩光塩学院の吹奏楽部から生徒25名が参加しました。下田のまちに溶け込んだ米軍水兵の姿や、国際色豊かな地域の雰囲気を感じるとともに、米海軍第7艦隊および海上自衛隊音楽隊の演奏にも触れました。17日には下田高校吹奏楽部や横須賀キニック高校ドリルチームとの交流も行い、同世代とのつながりを深めました。最終日には「にぎわいコンサート」に出演し、堂々と演奏し、パレードでは、初挑戦となるマーチングバンドの演技を見事にやり遂げた姿から、生徒たちの大きな成長が感じられました。

次回は、下田市と萩市の縁を繋ぐ吉田松陰先生について、萩市内に所在する所縁の地をご紹介します。



表敬訪問（萩市長挨拶・河内庁舎）



萩市物産ブース



高校交流会（下田小学校体育館）

フラワー都市交流 in 岐阜県大野町

～バラの生産量日本一のまち！！～

問合せ先：観光交流課観光企画係（河内庁舎2階）☎3913



5月13～15日の3日間、フラワー都市交流連絡協議会の総会が岐阜県大野町で開催され、下田市市民団として14名が参加しました。会場となった岐阜県大野町は、自然豊かで緑に恵まれた「バラ」がシンボルフラワーのまちです。バラの生産量は日本で、平成9年に開園した大野町バラ公園では、150種類2,000株のバラが5月～11月にかけて咲き、来園者の目を楽しませてくれます。

フラワー都市交流連絡協議会は、花のまちづくりをシンボルにし、活力と安らぎのある住みよいまちづくりを目指す全国9都市の花のまちが集まったものです。魅力ある地域づくりを営むことを目的とし、交流訪問事業や各都市間の花苗等の交換、交流物産展などを行っています。

当日は総会に併せ、同時期に行われていた「バラまつり大野」の会場見学や、加盟9都市の市民交流団が集うフラワーパーティーで交流を深めました。

次回は、北海道中富良野町を会場に、ラベンダーの開花時期に合わせ6月28～29日に開催予定です。これからも引き続き、市民の皆様にご参加いただきながら、花を通じた都市交流を広げていきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



市民団の皆様



わがまち紹介



フラワーパーティー

観光の裏舞台にある、もうひとつの支え。下田市の皆様、こんにちは！地域おこし協力隊・情報発信部門の鈴木和隆です。

夏の訪れとともに、下田のまちはにぎわいが増してきました。これからシーズンを迎える海水浴場は、地元区や市が公認した団体が、浜地の管理を行い、安心して安全な環境整備を行っています。

地元区等が運営する海の家などの収益の一部は、ごみの回収や砂浜の整備、安全に利用してもらうための管理費などに充てられていて、快適な海水浴場を維持するための原動力になっているそうです。つまり、あの気持ちのいい砂浜の環境は、そうした仕組みによって支えられているんですね。

以前はそういった背景をまったく知りませんでした。観光のお客さまだけでなく、地元に住む人にとってもありがたい話です。毎年気持ちよく海を利用できるのは、こうした仕組みからだと感じます。

観光業は地域の大切な柱。その陰にある仕組みや努力に、少し目を向けてみると、いつもの海がもっと誇らしく、そしてありがたく見えてきます。

「水やり」と「水くれ」。下田市の皆様、こんにちは！地域おこし協力隊・観光誘客促進部門の高橋真希です。

日本一の群生を誇る下田公園のあじさい祭が、今年も無事開幕しました。祭の開催と合わせ、13～22日の期間、了仙寺の参道で「竹あかり×あじさい」のライトアップを開催しました。ご覧いただけましたか？

期間中、あじさいの管理についてご教授くださった方とお話をする中で、特に「水やり」を「水くれ」と表現される方が多かったことが印象的でした。

「水をくれる」という表現は、県中部・西部にかけ、年配の方を中心に使われるそうですが、若い世代では、意味は知っていないものの、日常的には使わないというものの、「水くれ」とはいわれないそうで、賀茂地域の方言なのかもしれません。

下田に住んでいると、同じ市内なのに、各エリアでマチの雰囲気も違うと感じることが多いのです。もしかしたら、市内でも一部の地域でのみ使われる方言があるんじゃないでしょうか？皆さんの知っている方言があったら、ぜひ教えてください！

地域おこし協力隊の活動コラム

新庁舎整備事業

問合せ先 企画課庁舎建設係（河内庁舎3階）☎22212

体育館に2階が出来ました！！

新庁舎は、令和8年5月の全体開庁に向けて、新築棟と体育館棟の整備を進めています。旧稲生沢中学校の体育館も今回、市役所として生まれ変わります。体育館も利用することにより、解体建設に伴う二酸化炭素排出量を削減することができます。

1階は地域住民の方も利用可能な開かれた空間とし、2階は子ども関係部署の執務室となる予定です。

